

芸閣

～図書館だより～

第5号
2019年9月
桐蔭図書館発行

芸閣...「うんかく」と読みます。
書庫、書齋という意味です。
(「芸」は書籍に挿む虫除けの香草)

お月見

季節行事としておなじみの「お月見」。今年のお月見は9月13日(金)です。お月見は旧暦の8月15日に月を鑑賞する行事で、この日の月は「中秋の名月」、「十五夜」、「芋名月」と呼ばれます。月見の日には、おだんごやお餅、ススキ、サトイモなどをお供えて月を眺めます。

日本のお月見は、長い年月の中で日本独特の楽しみ方、習慣へと変わってきましたが、元をたどれば中国から伝わってきたものです。月見行事のルーツはよくわかっていませんが、最近の研究によると、中国各地では月見の日にはサトイモを食べることから、もともとはサトイモの収穫祭であったという説が有力となっています。



POPコンクールのご案内

和歌山県立図書館でPOPコンクールがあります。
募集期間 9月3日(火)～10月11日(金)

POPコンクールに応募してみようかな～という人、ビブリオバトル大会に出てみようかな～という人、興味のある人は桐蔭図書館まで来てください。

(中学生大会も高校生大会もあります)

ビブリオバトル大会のご案内

10月～11月に和歌山県内のあちこちでビブリオバトル地域大会が開催されます。各地域でチャンプ本に選ばれた人は、12月13日(日)に和歌山県立図書館で開催されるビブリオバトル和歌山大会決勝戦に出場し、その決勝戦でチャンプ本に選ばれたら全国大会に出場します。

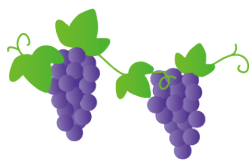
豆本を作ませんか！

文化祭1日目に、図書館で豆本作りをします。
15分～20分ぐらいで作れます。
是非、来てください。

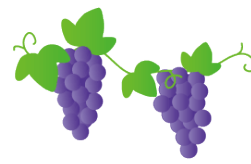
こんな豆本が作れます



(裏面に新着図書の紹介と図書館の活動報告を載せています)



新着図書の紹介



小説

- 『小説 天気の子』 新海誠 著 KADOKAWA
『店長がバカすぎて』 早見和真 著 角川春樹事務所
『わたしが少女型ロボットだったころ』
石川宏千花 著 偕成社
『死んでいない者』 滝口悠生 著 文藝春秋
『高架線』 滝口悠生 著 講談社
『彼女と彼女の猫』 新海誠 原作 カンゼン
『ぼくは本を読んでいる。』 ひこ田中 著 講談社

日本文学

- 『あの本の主人公と歩く東京物語散歩100』
堀越正光 著 ぺりかん社
『これはただの』 千原こはぎ 著
『実践！すぐに詠める俳句入門』
石寒太 著 日東書院本社

社会科学

- 『世界人権宣言 ビジュアル版』 創元社
『中高生からの選挙入門』 谷隆一 著 ぺりかん社

自然科学

- 『高校数学でわかる複素関数』 竹内淳 著 講談社
『富士山噴火と南海トラフ』 鎌田浩毅 著 講談社
『生き物の死にざま』 稲垣栄洋 著 草思社
『石の辞典』 矢作ちはる 著 雷鳥社
『草の辞典』 森乃おと 著 雷鳥社
『星の辞典』 柳谷杞一郎 著 雷鳥社
『海の辞典』 中村卓哉 著 雷鳥社
『空の辞典』 小河俊哉 著 雷鳥社
『化学図録』 数研出版
『物理図録』 数研出版
『生物図録』 数研出版
『トコトンやさしい磁力の本』
山崎耕造 著 日刊工業新聞社
『動物の権利入門』
ゲイリー・L. フランシオン 著 緑風出版

その他

- 『きみを変える50の名言』 佐久間博 文 汐文社
『壁を乗り越える論語塾』 安岡定子 著 PHP研究所



小地原先生に語っていただきました！

7月18日、本校の図書館で図書館講座が開かれました。国語科の小地原先生を講師としてお招きし、「読書のたのしみ」について語っていただきました。一冊読み終えたという充足感や、作家による表現の仕方の面白さなど、読書の魅力を再発見することができました。特に、「本を読む力をより身に着けるために、自分の読めそうな本より少し上のレベルの本を読む」という先生の言葉はとても心に響きました。

今回の図書館講座では、読書の魅力や、大切さを再認識できたので、参加してよかったなと思いました。次回もぜひ参加したいです。(1年古川)

文学散歩に行ってきました！

私たち図書局は、8月20日に文学散歩に行ってきました。行先は、四天王寺と大阪市立美術館です。四天王寺では五重塔の中に入ることができ、最上階で大阪の街並みを一望できました。また、金堂に安置された救世観音像の堂々たるお姿はとても厳かでおもわず拝んでしまいました。大阪市立美術館ではメアリー・エインズワースの浮世絵展が開催されていました。普段日常では触れることのない浮世絵を鑑賞することができ、貴重な経験ができました。皆さんもぜひ行ってみてください。(2年宮井)